

## 山形森林管理署 もがみ支署通信

【令和6年度森林・林業技術交流発表会が開催されました。】

緊張が走る発表の瞬間。



会場には多数の聴講者。



入賞の行方は如何に。



【1月28日（火）・29日（水）】東北森林管理局が主催する森林・林業技術交流発表会が東北森林管理局大会議室にて開催されました。

山形森林管理署最上支署からは、「旧薪炭共用林野を活用するには？利用可能な広葉樹資源の抽出」を題材に鮭川森林事務所森林官が発表を行いました。

地域住民が薪や炭を生産するために利用してきた薪炭共用林（里山林）もエネルギー事情等の変化に伴い徐々に利用が減少し、多くが未利用のまま放置されている状況です。

最上地域では菌床栽培きのご用のおが粉の原木として広葉樹が活用されていますが、広葉樹おが粉の生産は行われておらず他の地域からの購入となっています。そのため未利用の里山広葉樹林を循環利用することで、地域産業への資源供給を行うことができないかの手法・方向性を考察した内容となっています。

里山広葉樹林を維持して行くための方向性として、一石を投じる様な発表となりました。

森林・林業技術交流会の発表要旨・審査結果はHPで確認できます。

東北森林管理局 > 森林への招待状 > 技術情報 > 森林・林業技術交流発表会

【令和7年新春林政講演会に出席しました。】

会議はほぼ満席状態です。



【2月5日（水）】山形県森林協会等が主催する令和7年新春林政講演会が、山形市のパレスグランデールで開催されました。

演題は「山形の地域振興と農林業」と題し、山形県農林水産部農政企画課長を講師よる講演です。

今回の講演でのキーワードは、「持続可能性（サステナビリティ）」を掲げて、大きく3つの項目に分けられる内容です（SDGsですね）。

【自然環境の持続可能性】では、木質バイオマスの活用による化石燃料の削減など

【産業の持続可能性】では、エネルギー・資材・原料の脱輸入依存（環境負荷の低減）など

【地域の持続可能性】では、地域に人を呼び込む・残ってもらうためにはなど

の県内の農林業の一層の活性化に向けたお話がありました。

いよいよ講演の開始です。



最後に情報発信に関するお話では、「どう発信するか」よりも、「何を発信するか」、「発信すべき価値をつくる」と言った部分が大事だとのことでした。

県内農林業の活性化には3つの持続可能性に加え、取組みの情報発信の仕方の大切さを気付かされた講演となりました。



山形森林管理署 最上支署  
〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11  
TEL:0233-62-2122/FAX:0233-62-2706

